

## 会 議 録 要 旨

会議の名称	平成24年度第2回富士見市青少年問題協議会
開催日時	平成25年3月13日(水) 午後1時30分～3時20分
開催場所	中央図書館2階 集会室
出席者	星野信吾 会長、森元 州 委員、深井平次 委員、 今井 寛 委員、牟田泰啓 委員、竹内春夫 委員、 清水 修 委員、高野路子 委員、寺島直子 委員、 関 健二 委員、山田一江 委員、有賀輝彦 委員、 本間雄一 委員、吉田京子 委員、前田憲之 委員、 行松 泉 委員 事務局(東海林子ども未来部長、和田子育て支援課長、 木下子育て支援課副課長、小野寺子育て支援課主査)
欠席者	越智弘尚 委員、小沼彰彦 委員、中久喜勇 委員
公開・非公開	公開(傍聴人 1人)
会議次第	○会長あいさつ  ○研修 内容:「いじめの早期発見!見過ごさないために」 講師:埼玉県教育局県立学校部生徒指導課 生徒指導担当 小林学指導主事  ○意見交換
会議資料	○「いじめの早期発見!見過ごさないために」

## 会 議 内 容 (要点記録)

○研修：「いじめの早期発見！見過ごさないために」  
別紙資料参照。

○意見交換

【議 長】ただ今の講師の先生のお話を伺い、委員の皆さんのご意見をお願いします。

【委 員】地元の若者たちとの交流をしていますが、こういう席に対象となる世代がいてほしいです。実際に、当事者たちの声はどうなのでしょう。当事者たちの意見を聞きたいです。ネット関係、ネットに侵入する若者、知識を持った若者を利用して、犯罪者への対応をさせることはできないのでしょうか。アメリカなどではもう実施していると聞いています。行政的にはどのような対応をしていますか。

【講 師】今年度については、ネットに詳しい者を三名緊急雇用で協力してもらっています。来年度からは委託事業として続ける予定です。「立ち直り支援」ということでは、立ち直ってきた人たちにも協力してもらい、ソフトボール大会を行いました。生の子どもたちの声を大事にしています。

【議 長】教育委員会ではどんな状況ですか。

【委 員】「いじめ」はどこの学校でもありうることです。今年度では一学期に 10 件、二学期 18 件の報告がありました。ただその中身は、からかいなどが中心で事件化するような重大な所までは行っていません。これらは教育相談室の相談員が対応しています。学校、教育委員会と相談室で連携して対応しています。

【議 長】セーフティネットができていくということですね。

【委 員】ケースバイケースで対応しています。それ程重篤状況なものにはなっていませんが、それでも神経をとがらせて、いつでも緊張して見守っていく必要があります。

【委 員】小学生から中学生になった時に、急に「いじめ」が増えているということですが、それまでに「芽」があるのではないのでしょうか。小学生の時に、早期からもうちょっと手を打つことができるのではないのでしょうか。保護者が自分の子以外にも目を向けるように、地域の目をもっと増やしていければ良いのではないかと思います。小さい頃から対人関係など社会性を育てられるような地域になってほしいです。ネット上で「人を殺したい」と書き込むのはもう犯罪なのかどうか。世界と共通の目を持つべき、どこまでが犯罪かを知るべきだと思います。こういう点においてはきちんと子どもに教えていくべきだと思います。

【講 師】「誰が誰を」など特定された場合は通報し、逮捕されています。私たちにはそうした義務があります。ただ世の中全体には「いじめ」の認知がされていない状況があります。また、保護者自身も理解していない場合も多いのですが、大事な小学校から中学校にかかる時期、そういった保護者も含めた「いじめ」に対する理解を深めてもらふ必要があります。

【議 長】小・中の連携が大事ということですが、中一ギャップといわれるものは、どちらに出るのでしょうか。いじめる側か、或いはいじめられる側か。中一ギャップをなくしていくためにはどうしたら良いのでしょうか。

【講 師】中一ギャップについてですが、小学校から中学校に入ると、階段が急に上がります。部活があり、学習内容も難しくなります。英語などの教科も増え、また複数の小学校から入学してくることによる人間関係の難しさも複雑に絡んでくるため、

一時的に増加するものと思われます。

【委員】生徒の生活様式が複合化されたことも関係あるのでしょうか。

【講師】昔はガキ大将がいて、人間関係が決まっていました。シンプルな関係でした。今は恵まれていて、家で済ますことができなくなってしまいました。ゲーム・パソコンなどが普及し、生活が多様化・複雑化していて、見えにくくなってきています。昔は不便でしたが、今はすぐに何でも手に入ってしまう。そうした中で、人間関係ができないのです。我慢ができないのです。

【委員】すぐキレる子どもが多くなっていますが、中学校の先生はどう対応しているのでしょうか。

【委員】学校では問題のある生徒も、他校の強い生徒が来るとおとなしくなったりします。問題行動の子はそういう「振り」をしているのではないかと思います。社会的な責任を教え、正しい認識を教えこまなければならないと思います。

【委員】「いじめ」と犯罪は地続きです。保護処分を受けた子を預かっていますが、暴力行動を起こして、家裁送りになり、保護処分を受けた子は、私の前ではおとなしいのです。別の場所では別の行動をとります。社会生活の最小の基盤は家庭。最初の教育は家庭なので、家庭に帰依させるように持っていきますが、家庭の協力が得られないこともあります。

【委員】地域の青少年活動を、不特定多数の子を対象に行っています。地域で映画会や焼き芋大会などを実施していますが、そういう時に写真を撮ります。行事や写真などで気になる子がいたら、地域の育成会などとの連携で対応するようにしています。ただ、地域では子どもが手を離れる時に親が職に就いているので、「ただいま」と言っても誰もいない時が多くなっている状況があります。また、育成会がない地域もあります。夏休み宿題教室を行っていますが、水谷第8集会所などではお年寄りの協力はあります。若い方たちの協力はありません。今後 PTA や育成会の活動は重要になるのではないのでしょうか。

【委員】育成会のない地域で PTA 活動を行っている者ですが、保護者を一括りにはできません。保護者の中でも協力の程度が分かれる様子があります。ただ現在の若い世帯の状況では、まず生活ありき、子育てありきとなっている現状があります。生活の苦しい中、お母さんの収入に頼るところがあるのです。また色々な役をやっているのが大変という背景があります。忙しい中でも家族とのコミュニケーションをとっている所は荒れないのではないのでしょうか。学校だけでは難しいと思います。学校単位でこうした話し合いはできないかと思います。家庭や保護者も協力してやっていけるかがカギだと思います。ただ、学校と家庭との意識の開きがあるのではないのでしょうか。連携と情報の共有が大事だと思います。「地域の声掛け」を進めていくのも良いと思いますが。最近では防犯情報として「声掛け事案」もあり、不審者扱いされたりすることもあるので、難しくなっています。

【議長】家庭がしっかりとしなければならないとおもいますが、育成会と PTA との関係が大事だという視点も提起されました。ただ国の対応が遅いのです。受け身になっているのではないのでしょうか。市長会等でも言っていきたいと思っています。今日は「いじめ」について共通認識が持てたのではないかと思います。それぞれの委員が持ち帰って、「いじめ」をなくしていく活動に取り組んでいただきたいと思っています。

【議長】本日はありがとうございました。